



発行者 島根県健康福祉部  
医療政策課医師確保対策室

### 今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO.70《松江赤十字病院 院長 大居 慎治》
- ◆看護師さんのページ NO.50《国立病院機構浜田医療センター 集中ケア認定看護師 中田 健》
- ◆研修医のページ NO.53《益田地域医療センター医師会病院 医師 松原 秀紀》
- ◆島根の地域医療 レジナビフェア 2018 ~専門研修プログラム~
- ◆医療政策課から 県外でのPR活動（学会ブース出展）
- ◆なるほど！吉田くんのしまねゼミ



## 地域医療 最前線 No.70

松江赤十字病院

院長 大居 慎治



松江赤十字病院は昭和11年に設立され今年で82年余になります。

すが、前身の明治9年設立の公立松江病院（のちの県立松江病院）の時代を加えると実に140年余の歴史があります。地元の人々には「日赤病院」と呼ばれ親しまれております。病床数は599床で、救命救急センター、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、臨床研修指定病院、災害拠点病院等の指定を受けています。

当院は赤十字の原則である人道（命と尊厳の重視）を理念に掲げ、5つの基本方針として、①高度良質の医療、②地域連携による切れ目のない医療、③救急医療、④災害救護、⑤明日の医療人を育てる教育病院をあげています。

高度良質の医療の例としては、ハイブリッド手術室を備え、心血管系・脳血管系疾患の治療には定評があ

り、がん診療の実績も県内トップクラスです。安全・安心の医療のために医療安全推進室、感染管理室、患者相談室を備えて対応しております。

地域連携による切れ目のない医療では、地域の医療機関、福祉施設との連携を地域医療連携課、医療社会事業課が担当しています。今年度は入院前から退院まで多職種で患者さんの回復と生活復帰をはかる入院支援センターを拡充させる予定です。

救急医療については、24時間対応可能な3次救急までこなす高度の救急病院を目指しており、平成28年度については、救急車受入率が県内の

救命救急センターではトップでした。またヘリポートを備え緊急事態にも対応しています。

災害救護については赤十字の使命であり、平時からDMATのほか赤十字病院とも連携して急性期から復興期まで息の長い救護を提供しています。当院の建物は、免震構造で、放射線防護対策施設であるとともに、万一当地で災害が起こっても、数日間を持ちこたえられるだけの食料、飲料水及び医薬品などを備蓄しています。

明日の医療人を育てる教育病院としては、教育全体にかかわる部門として教育推進室を設けています。医学生、看護学生のほか、いろいろな職種の医療人を目指す実習生を受け入れています。入職後も初期研修医、看護師はいうまでもなく、他の職種についても研修計画を立て、毎年研修ガイドを発行し、教育計画を全職員に公開しております。また他の施設で働く医療職の指導や救急隊の実務研修も受け入れています。

最後に、松江赤十字病院では、今日まで一貫して島根県東部の基幹病院として地域の医療を支えてまいりましたが、今後も急性期病院として高度で良質な医療を提供することが使命と考えております。当院がこれからも皆様方のご期待に応える病院であり続けるよう、精一杯頑張る所存です。





浜田医療センターでの認定看護師の活動について

国立病院機構浜田医療センター  
集中ケア認定看護師 中田 健

浜田医療センターは「心のこもった情のある医療」を基本理念として、島根県西部の中核病院としての役割を担っています。



当院では診療看護師2名、認定看護師11分野16名が中心となり、「認知症ケアチーム」「呼吸サポートチーム」「院内急変対策チーム」「褥瘡対策チーム」

「緩和ケアチーム」「抗菌剤適正チーム」「感染対策チーム」「栄養サポートチーム」の8つのチームが活動しています。メンバーは医師、メディカルスタッフ、認定看護師となっております。この中で認定看護師はチームを動かしていくためのマネジメントが求められています。ラウンドを定期的に行い、また要請があれば部署に行って介入し、問題解決につながるように活動しています。

私は、2013年に集中ケア認定

看護師資格を取得し、現在「呼吸サポートチーム(RST)」「院内急変対策チーム(RRT)」の一員として組織横断的に活動を行っています。

RSTの活動は、医師・看護師(診療看護師、慢性呼吸器疾患看護認定看護師、集中ケア認定看護師)、臨床工学士、理学療法士で人工呼吸器装着患者さんを中心にラウンドを行い、人工呼吸器からの早期離脱のため主治医と連携を図り、介入を行っています。また院内職員や県内の医療スタッフに向けた研修会を行い、人工呼吸器に関する知識や技術の向上に努めています。

RRTの活動では、医師・看護師



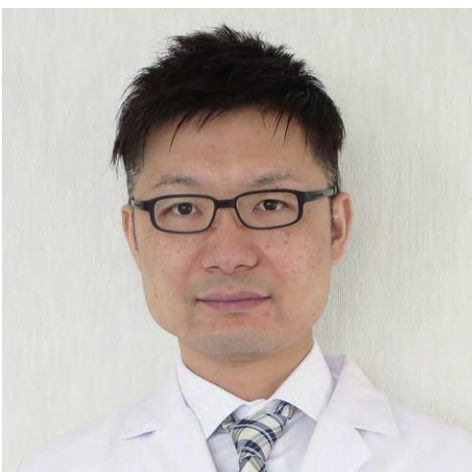
(診療看護師、救急看護認定看護師、集中ケア認定看護師)で各病棟をラウンドし、患者さんの異常の早期発見や異常時の早期介入を行い、患者さんの重症化の回避を図っています。また、院内職員の急変対応の技術向上のために、BLSやICLS研修の企画・運営を行っています。

現在チーム医療を推進する中で看護師は非常に大きな役割を果たしています。その中で2014年に特定行為に係る看護師の研修制度が創設され、2015年10月より研修が開始されました。昨年私は、日本看護協会看護研修センターで行われた特定行為研修を受講し6区分15行為の特定行為研修を修了しました。特定行為の内容としては、栄養水分管理に関わる薬剤投与関連、呼吸器関連やPICC、動脈血ガス分析関連、循環動態に係る薬剤投与関連等です。研修修了後は、手順書に基づき担当医と連携をとりながら実践を行っています。特定行為が行える事で、医師がタイムリーに対応できない場合など、手順書の範囲内で実践を行い、患者さんの苦痛の軽減や重症化の回避につながることができるようになったと感じています。特定行為を行う中でその行為ばかりに目を向けるのではなく、看護師としての視点もしっかり持って、患者さんの状態に応じた介入を行っていきたいと思います。今後も、自分の知識・技術の向上を図り、患者さんがより

良い医療・看護を受けられるよう、また地域に貢献できるように研鑽していきたいと思います。

親父たちの背中で学ぶ

益田地域医療センター医師会病院  
医師 松原 秀紀



私は4月から益田地域医療センター医師会病院で内科医として勤務させていただいています。出身は岐阜県で富山大学を卒業後、北海道帯広市で研修医として2年間勤務していました。そんな私が縁もゆかりもなかった島根県で働くことになるとは昨年の今頃は夢にも思いませんでした。

私は医学部に入学する前に精神障がい者の支援や介護士として勤務してきました。そのような背景もあり、



将来は地域医療に関わりたいという思いが強く、研修医として次の進路を模索していました。どこかの家庭医療プログラムへ進むことも考えましたが、自分の思い描くものに重なるものがなかなか見つけれずいました。そんな時に出会ったのが、離島やへき地で活躍する医師の研修などを支援するゲネプロという組織です。そして、ゲネプロが提供するプログラムの中で興味を惹かれたのが、本年度から益田市の医師会が中心となって始まるうとしていた「親父の背中」プログラムでした。このプログラムは簡単に説明すると、病院で内科医として勤務しながら、週に何度かは地域の開業医（耳鼻咽喉科、整形外科、皮膚科、内科、小児科など）の先生のところへ研修させてもらえるという贅沢なものです。現在は、将来自分が地域医療に関わっていく中で必要となる知識や技術を『親父たちの背中』から感じ、多くのことを吸収するため日々精進しております。



## レジナビフェア2018 専門研修プログラム

6月3日(日)、グランフロント大阪で開催された「レジナビフェア2018」専門研修プログラムに出展、島根大学医学部附属病院、島根県立中央病院、仁寿会 加藤病院が参加されました。

このフェアには、約140施設が出展し、初期研修医を中心に合計442人が来場しました。今年度の島根県ブースは会場奥側に配置され

たため、研修医の皆さんにブースまで来ていただけるか心配していましたが、当日は8人の研修医(内、後期研修医1人)に来訪いただきました。

ブースでは、各病院の指導医から後期研修プログラムの説明を行いました。研修医からも積極的な質問があり、研修プログラムや病院を探す皆さんの熱心な様子うかがえました。

今後も、県外からの後期研修医が一人でも増えるよう、各病院や島根県等と連携して「後期研修医を増やす」取組みを進めてまいります。

【しまね地域医療支援センター】



## 県外でのPR活動 (学会ブース出展)

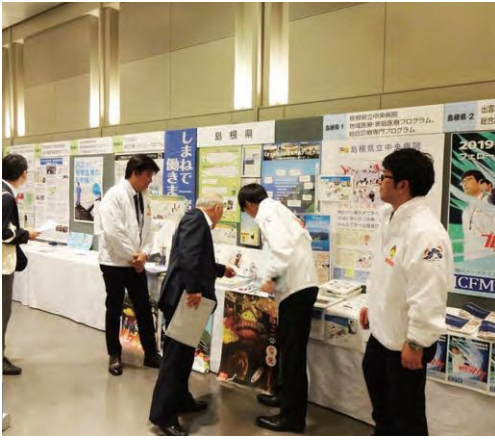
4月20日(金)から22日(日)にかけて開催された「第121回日本小児科学会学会学術集会」と、6月16日(土)、17日(日)に開催された「第9回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会」に島根県の医師招へいや支援策などをPRするブースを出展しました。



第121回日本小児科学会学術集会

こうした学会に自治体がブースを出すことは珍しく、思わず立ち止まる先生も少なくありませんでした。手探りでの出展となりましたが、展示を見て初めて島根県の取組みを知ったという方も多く、ふだん行っているホームページや広告での情報発信では届かない、ブース出展でしか結ぶことができない「ご縁」があると強く感じました。





第9回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

また、両学会とも、県内の小児科、総合診療の医師の方々に力強いご協力をいただき、島根県の小児医療や総合診療の魅力についてもPRをすることができました。

一方で、島根県自体に行ったことがない、何かあるかイメージが湧かないという方も一定数いらっしゃいました。U・Iターンと同じように、医師招へいの第一歩は島根県を知っていただくことから始まると感じています。今後も、一人でも多くの方に「しまね」を知っていただければ、情報発信し続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、島根県はこれからも順次県外でのPR活動を行う予定です。その際は今年4月に開設した「赤ひげバンク Facebook」でもご案内いたしますので、足をお運びいただければ幸いです。

【医療政策課 布野】

島根県政広報番組

で県内で活躍中の若手医師が紹介されました！是非ご覧ください！

#51 がんばるしまねのお医者さん

<http://www.tsk-tv.com/tv/shimane-zemi/past/?cat=5>

地域医療に携わり頑張る姿を約4分でお届け！

医師募集  
キャラクター  
赤ひげ先生

島根の医療機関で働いてくださる方を募集しています！

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。

**赤ひげバンク**にご登録いただいた方には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

赤ひげバンクの登録者の方で、住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

赤ひげ先生  
インタビュー  
**MediGate**  
で公開中！

**島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室**

〒690-8501 松江市殿町1番地  
TEL 0852-22-6683 FAX 0852-22-6040  
E-Mail [iryoo@pref.shimane.lg.jp](mailto:iryoo@pref.shimane.lg.jp)  
HP : <http://www.pref.shimane.lg.jp/medical/kenko/iryoo/ishikakuhotaisaku/>

MediGate 島根県

**SHIMANE  
AKAHIGE  
BANK**